

季刊

はまかせ


 国家公務員共済組合連合会
浜の町病院
 日本医療機能評価機構・平成16年認定
 Hamanomachi Hospital
 2017 第68号
 Oct.



C O N T E N T S

- 専門の立場から
血液疾患の治療と進歩 飯野 忠史
- 専門・認定看護師の紹介
- 地域医療連携課だより
- 登録医から一言
- 外来診療担当医一覧

理 念

『病める人の身になって、
心のこもった最良の医療を目指します』

基本方針

1. 福岡市の基幹病院として急性期医療を担います。
2. 地域医療支援病院として、地域の医療機関との連携や役割分担による地域完結型医療を目指します。
3. 安全で質の高い医療を追求し、患者さんに満足していただける病院を目指します。
4. 患者さんの尊厳と権利を尊重します。
5. 新しい時代の医療を先取りし、常に研鑽努力します。

Hamanomachi Hospital

〒810-8539 福岡市中央区長浜3丁目3-1 TEL 092・721・0831 FAX 092・714・3262

<http://www.hamanomachi.jp>

血液疾患の治療の進歩



造血幹細胞移植室医長 飯野 忠史

はじめに

血液内科の分野において、ここ数年の間に、治療法が進化、変遷しています。これは、病気の原因が少しずつ解明され、原因そのものに対する直接的なアプローチが現実化し、治療手段が多様化したことにあります。小分子化合物、タンパク製剤である抗体療法などの分子標的薬、さらに、免疫を介した治療や細胞を使った細胞製剤も登場してきています。これらの薬の登場により、治療方針、ガイドラインが大きく変わってきています。ここでは、血液内科で、ここ数年の間に登場した新しい薬剤、治療法について、説明したいと思います。

慢性骨髄性白血病

慢性骨髄性白血病は、bcr-ablというチロシンキナーゼの異常により白血球が増える病気です。グリベック®は、この原因のbcr-ablを阻害する薬（チロシンキナーゼ阻害剤）です。グリベック®の登場により、慢性骨髄性白血病は飲み薬のみで治すことが可能になり、

特徴の異なるチロシンキナーゼ阻害剤の種類が増えたことによって（表1）、患者さんの病状や合併症に合わせて、使い分ける時代になってきています。

悪性リンパ腫

リンパ球が塊をつくったものが、悪性リンパ腫です。細胞表面にCD20という分子が出現する悪性リンパ腫に対して、有効な分子標的薬が、初の抗体製剤であるリツキサン®です。リツキサン®はCD20を狙い撃ちにするモノクローナル抗体です。同じような抗体医薬として、同じくCD20を標的にするゼヴァリン®があります。ゼヴァリン®は、抗体にイットリウムという放射性同位元素が結合しており、イットリウムから放たれる放射線の力によってCD20陽性のリンパ腫を攻撃します。ゼ

表1. 慢性骨髄性白血病に対する分子標的薬

世代	薬の名前	国内承認年
第一世代	グリベック	2001
第二世代	タングナ	2009
	スプリセル	2009
第三世代	ボシュリフ	2014
	アイクルシグ	2017

表2. 血液内科での主な抗体製剤

薬の名前	標的	対象疾患	国内承認年
リツキサン	CD20	悪性リンパ腫	2001
ゼヴァリン	CD20	悪性リンパ腫	2008
ポテリジオ	CCR4	成人T細胞性白血病	2012
エムプリシティ	SLAM-F7	多発性骨髄腫	2016
ドラツムマブ	CD38	多発性骨髄腫	未承認
オブジーボ	PD-1	ホジキンリンパ腫	2016
アドセトリス	CD30	ホジキンリンパ腫、未分化大細胞リンパ腫	2014
ソリリス	補体C5	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2010

ヴァリン®を投与できる医療機関は限られており、当院は、九州地区で数少ない投与可能な医療機関の一つです。これらの抗体製剤は、がん細胞表面の目印を標的にした分子標的薬になります。さらに、ここ数年、大きな話題となっている薬が免疫チェックポイント阻害剤という抗体製剤です。オプジーボ®という薬は、PD-1というTリンパ球の細胞の表面に結合し、結果的に免疫の力を高めることで、がん細胞を治療するユニークな薬です。オプジーボ®はPD-L1という分子が発現しているがんに有効であり、血液腫瘍ではホジキン病というリンパ腫に有効です。このように抗体製剤は多くのものが登場しています（表2）。

多発性骨髄腫

多発性骨髄腫という形質細胞が癌化した腫瘍に対して、プロテアソーム阻害剤、免疫調整薬など、多くの新薬が登場しています。プロテアソーム阻害剤であるベルケイド®、免疫調整薬であるサレド®、レブラミド®が使われます。さらに、それらの第二、第三世代の薬が登場しています。エムプリシティ®やダラツマブなど抗体製剤も登場し、骨髄腫の細胞表面の分子を標的にした治療も始まりつつあります。

図1. 日本で初めて承認された細胞製剤
JCRファーマ社のHPより



細胞を使った薬（細胞製剤）

テムセル®HS(図1)は、日本で初めて承認された他家（健康な人由来の）骨髄間葉系幹細胞製剤です。テムセル®HSは免疫系を制御することで、造血幹細胞移植後の急性移植片対宿主病に対して有効な細胞製剤ですが、使用できる病院が限定されています。当院は、九州地区で数少ない投与施設の一つであり、近隣の移植病院と連携してテムセル®HSによる治療を行なっています。そして、現在、非常に注目を浴びているのが、B細胞性急性リンパ芽球性白血病に対する治療薬であるキムリア®（図2）です。2017年8月に米国食品医薬品局（FDA）から承認されました（国内未承認）。この薬は、患者さんのリンパ球を採取し、CD19分子に対する抗体の遺伝子を組み込んだ遺伝子改変T細胞です。患者ごとにオーダーメイドで作ります。画期的な薬ですが、1回の治療に47.5万ドル必要で、高額な点でも話題になっています。

図2. 世界初の遺伝子改変T細胞製剤（\$47.5万）
ノバルティス社のHPより



さいごに

血液の分野では、続々と新しい薬が登場しています。世界中で研究、臨床試験が行われています。最新の情報や新薬の情報の有無で、患者さんに提供できる医療が変わってきます。私たちは、九州大学や福岡血液骨髄移植グループに属する医療機関と連携し、常に最先端の情報、良質なエビデンス（治療を行う上での科学的な根拠）をもとにした最良の治療を患者さんにお勧めしています。

専門・認定看護師の紹介

がん看護専門看護師

がん看護専門看護師とは、「がん患者の精神的な苦痛を理解し、患者やその家族に対してQOL（生活の質）の視点にたった水準の高い看護を提供する」ことを目的に活動しています。

具体的には、治療に伴う症状の軽減や対処のサポート、精神的苦痛の軽減、生活の調整といった直接ケアを行います。また、多角的な視点をもって多職種スタッフと調整や様々な葛藤や価値観の違いからくる問題に対する倫理調整を行い、解決に向けて支援します。さらに、教育的役割として院内問わず地域の医療従事者への研修会を提供するといった活動を行っております。並行して、がん看護に関する研究を通して社会に貢献していくことが求められています。

がん患者さんとそのご家族のご意向や価値観を大切にしながら、よりよい療養生活が送れるようにサポートさせていただきます。

【野口 玉枝】

主に外来化学療法室や緩和ケアチームで活動しています。そのほか、がんサロンも1回/月行っています。主治医からの治療内容や病状の説明に関して、これからのこと、治療や生活について、一緒に考えていくサポートを行っています。

【菊田 美穂】

血液内科に所属しています。主に、がんの告知や治療の選択場面、症状への対応といったサポートに関わっています。「患者さんにとって何が一番良い方法なのか」問い続けながら、チームスタッフや多職種と協働して患者さんのQOL（生活の質）の向上に取り組んでいます。

何かお困りごと、気がかりなことがありましたら、様々ながん看護相談を活用していただきたいと思います。ご希望の際は周囲の医師や看護師などの医療者にお声掛けください。

がん化学療法看護認定看護師

【工藤真由美】

血液内科病棟に所属しています。抗がん剤治療を受ける患者さんや家族の安心・安全を考え、適切なケアをスタッフとともに提供できるよう努めています。初めて抗がん剤治療を受ける患者さんと家族は、とくに心や身体の変化や予測のつかない副作用などの症状や経過に、不安や戸惑いがあると思います。患者さんと家族との会話やコミュニケーションを大切に、お一人お一人が抱える様々な問題の対処方法や、必要な情報が提供できるよう工夫しています。自分らしく病と向き合い、治療が納得して受けられるよう多職種チームで支え、いつでも相談できる環境を提供したいと考えています。



【木下 佐恵】

外来化学療法室に勤務しています。外来で抗がん剤治療を受ける患者さんは、社会生活を中断することなく治療ができるというメリットがあります。その一方で、副作用や疾患そのものの症状など様々な問題に自ら対処することが求められます。外来での短時間の関わりの中で、自宅での困りごとや気がかり、副作用でつらい思いをされていないか積極的にお話を聞くようにしています。がんを患った患者さんがその方らしく生活しながら、がんを歩んでいくことができるように支援を行っていきたく考えています。

外来化学療法室では、患者さんにほっと一息つける空間を提供できるように日々所属するスタッフと協力しています。





緩和ケア認定看護師

【福島 由紀】

緩和ケアとは、病気による体のつらさ（痛み、息苦しさ、吐き気など）や、気持ちのつらさを和らげるためのケアです。「末期の人が受けるもの」とイメージされる方が多いようですが、病気がわかった時から、病気への治療と並行して行います。

私は2010年に緩和ケア認定看護師の資格を取得し、現在は緩和医療内科の入院をお引き受けする病棟に所属しています。そして、週に一度、緩和ケアチームのメンバーとしても活動しています。

緩和医療内科の入院病棟では、専門的な緩和ケアの提供を行うことはもちろんですが、患者さんがその人らしく生活できるように、という視点で日常生活の援助をすることを心がけています。また、ケアの対象は患者さんご本人だけでなく、ご家族も、と考へ、ご家族のつらさに対するケアも行います。入院生活の中でほっと一息つける時間となるよう、季節感を感じられるようなイベントなども企画しています。

節感を感じられるようなイベントなども企画しています。

緩和ケアチームでは、院内の様々な診療科で治療をされている患者さんからの依頼を受け、入院病棟へ伺って、つらい症状を和らげるためのお手伝いをしています。

緩和ケアについてもっと詳しく知りたい、という方はぜひお近くのスタッフを通して緩和ケアチームへご依頼ください。



がん放射線療法看護認定看護師

【藤川 綾】

私は、2013年にがん放射線療法認定看護師の資格を取得しました。放射線療法の治療目的は、根治、手術後の再発予防、症状緩和など幅広く、適応となる疾患も様々です。現在、私は病棟に所属し、がん放射線療法を受けられる患者さんに対して、治療効果を最大限に発揮するため治療を予定通りに完遂できるように、特にセルフケア支援や症状による苦痛緩和に対する支援に取り組んでいます。月2回、実

際に治療を受けられる場所である放射線治療室で、患者さんと関わっています。今後は、放射線療法を受けられている患者さんの入院病棟に積極的に訪問し、日々の看護を提供している病棟看護師と連携し、患者さんのケアを共に考え実践していきたいと考えています。

これからも、看護部の理念である「心によりそう看護」を基軸とし、治療を受けられる患者さんが、安心して治療を受けられるよう、様々なメディカルスタッフと協力してサポートしていきたいと考えています。今後ともよろしくお願ひ致します。



第9回 浜の町病院 医師に対する緩和ケア研修会 開催報告

主催：国家公務員共済組合連合会 浜の町病院

日時：平成29年8月5日（土）

～平成29年8月6日（日）

会場：浜の町病院3階研修講堂

平成29年8月5日(土)・6日(日)の2日に渡り、浜の町病院 3階研修講堂におきまして、「第9回 浜の町病院 医師に対する緩和ケア研修会」を開催いたしました。この研修会は、「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」(平成20年4月1日付け健発第0401016号厚生労働省健康局長通知)に基づき、毎年当院で開かれているものです。

院内外から緩和ケア・精神腫瘍学の基本教育に関する指導者研修を修了した経験豊富な指導者9名を集めて、研修会ファシリテーターを担当いただきました。さらに当院緩和ケアチームのメンバーが、研修会運営をサポートしました。これも院内外から2年次初期研修医から、臨床経験3-5年目の若手医師、経験豊富ながん診療医まで、計32名が本研修会を受講されました。受講生は、緩和ケア

に関する双方向性講義、ロールプレイ、グループ討議などに熱心に参加され、全員が全課程を修了されました。研修会を修了された先生方には、本研修会を通じて学ばれた緩和ケアに関する基本的な知識や技術、態度を、明日からの臨床の場で患者さんとそのご家族のために役立てていただけることと信じております。

最後に、受講生、ファシリテーター、スタッフなど多数の皆さまのご協力をいただき、研修会を無事終了することができましたこと、謹んでお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

研修会企画責任者 永山 淳 (浜の町病院 緩和医療内科)

症例検討



記念撮影 皆様お疲れ様でした



リレーフォーライフ in 福岡に参加しました！

日時：平成29年9月9日～10日

会場：海の中道海浜公園 光と風の広場にて

今年も浜の町病院より「オーシャンブリーズ」というチーム名で、有志の職員・家族、計32名で参加してきました。

リレーフォーライフとは、がん患者さんとそのご家族の辛さを少しでもわけ合い、わかり合うためタスキをつなげ24時間歩き続けるというチャリティイベントです。福岡での開催は今年で9回目となり、当院も初回から参加しています。

浜の町病院では、本番前に行う院内の募金やチャリティのバザーが恒例となっています。今年もたくさんの方からの協力を得て、パンやクッキー、ケーキに、手作りアクセサリーなどを販売し、多くの寄付金を届けることができました。アクセサリーは当日も販売し、こちらも寄

付につなげることができました。

当日は天候にも恵まれ、気持ちよく参加することができました。今年は例年よりも幅広い部署の方のご参加があり、浜の町病院のチームテントも大変にぎやかとなりました。また、リンパマッサージやリフレクソロジーのブースでも活動している浜の町病院のスタッフの姿もありました。

今後も参加していく予定ですので、ご協力どうぞよろしくをお願いします。

文責：臨床心理士 伊原 出



地域連携だより

登録医から 一言

とよしまファミリークリニック

院長 豊島 元

医師 中尾 健次郎

〒810-0044 福岡市中央区六本松4丁目8-15

Tel:092-771-8858

Fax:092-771-8877

HP:www.toyofamic.net



院長 豊島 元

とよしまファミリークリニックは平成17年に中央区谷1丁目で開業し、昨年6月に六本松4丁目に引っ越してきました。六本松地区は九州大学教養部跡地の再利用計画が進んでおり、分譲マンション、福岡市科学館、住宅型有料老人ホームなどの入った建物が完成し、人の流れが活発になってきています。裁判所や検察庁の建物も来年度には完成するとのこと。当院はその九大跡地と通りをはさんだ反対側にあります。

当院の診療は、「家庭医療」「老年医療」をベースにしており、いつでも、どんな問題でも、責任をもって、利用できる施設人材をうまく使って、中断することなく患者さんに向き合って解決するという心をかけています。実際の診療は午前中と夕方の外来診療に加えて、午後は在宅診療を行っています。在宅診療では認知症の方、脳血管障害などの後遺症で麻痺が残っておられる方、神経難病の方、在宅酸素療法をしている方、癌の末期の方など様々です。2年前から医師2名体制となり、外来診療中でも在宅

患者さんの具合が悪いときはいつでも救急往診ができる体制となっています。癌の末期の患者さんの中には、最後まで御自宅で過ごしたいというご希望で在宅診療を依頼される方も増えており、御自宅で最後まで看させていただくことも珍しくなくなっています。また、介護サービスと在宅診療をうまく利用して、以前は困難であった独居生活を続けていただけるようになってきています。

ご高齢の患者さん、在宅診療中の患者さんでは、急変することや診断が困難なことも多く、いつも悩まされています。そのような時、浜の町病院の先生方には24時間いつでも相談にのっていただいたり、救急での受診を引き受けただけのこと、大きな安心となっております。また、地域医療連携室のスタッフの皆さんには、在宅患者さんの入退院の調整をはじめ、いつもお世話になっています。今後とも、浜の町病院の皆様には、どうぞよろしくお願い申し上げます。



国家公務員共済組合連合会 浜の町病院外来診療担当医

■ 救急患者紹介連絡先 月～金（8:30～17:15） Tel 092-721-9913（連携課直通） / Fax 0120-721-991（連携課直通）
 上記以外の時間及び土日祝 Tel 092-721-0831（病院代表）

（平成29年10月1日現在）

診 療 科	時間	専 門	月	火	水	木	金
内 科 <small>（腫瘍内科の新患は月～金の午後）</small>	午前	総合診療	内田勇二郎	中澤愛美	当番医	内田勇二郎	当番医
		血液新患	衛藤徹也	吉田周郎	衛藤徹也	平安山英徳	栗山拓郎
		血液再来	吉田周郎	衛藤・栗山	平安山英徳	衛藤・松尾弥生	平安山英徳
		循環器新患	小河清寛	高原勇介	白井真	船越祐子	塩見哲也
		循環器再来	塩見哲也	船越祐子	高原勇介	小河清寛	白井真
		消化器	尾石義謙	瀬尾充	瀬尾充	岩崎一秀	尾石義謙
		腫瘍	田中吏佐	田中吏佐	田中吏佐	田中吏佐	三ツ木健二
		肝臓	柴田倫子	高橋和弘	具嶋敏文	高橋和弘	高橋和弘
		呼吸器	前山隆茂	鶴田伸子	鶴田伸子	鶴田伸子	鶴田伸子
			麻生達磨	前山隆茂	麻生達磨	前山隆茂	前山隆茂
		糖尿病内分泌	渡邊洋子	平松真祐	平松真祐	渡邊洋子	平松・渡邊
		腎臓	原祥子	吉田鉄彦	出口孝史	出口孝史	吉田鉄彦
		膠原病	吉澤（予約再来のみ）	横山（予約再来のみ）	吉澤誠司	吉澤誠司	吉澤（予約再来のみ）
感染	内田勇二郎	内田勇二郎	内田勇二郎	内田勇二郎	内田勇二郎		
脳神経センター <small>脳外科（月・水・金）の午後、 神経内科の午後は 紹介患者と予約のみ</small>	午前	脳外科	松角宏一郎	新患紹介のみ （手術日のため、受付 できない場合もあり）	松角宏一郎	新患紹介のみ （手術日のため、受付 できない場合もあり）	松角宏一郎
			上坂十四夫	上坂十四夫	上坂十四夫		
	午後	脳外科	松山友美	佐竹・松山	佐竹真理恵	佐竹・松山	佐竹（新患のみ）
			松角宏一郎	新患紹介のみ （手術日のため、受付 できない場合もあり）	前原直喜	新患紹介のみ （手術日のため、受付 できない場合もあり）	松角宏一郎
外 科 <small>※木曜日の午後は Dr大城戸への乳腺紹介のみ</small>	午前	消化器・一般	許斐裕之	一宮仁	前山良	許斐裕之	植木隆
			本山由利菜	植木隆	河野博	前山良	池永直樹
			呼吸器	河野博	河野博	池永直樹	池永直樹
	午後	乳腺・甲状腺	大城戸・本山	大城戸・河野	河野博	池永直樹	池永直樹
大城戸政行 （新患紹介のみ）			大城戸政行 （新患紹介のみ）	大城戸政行 （新患紹介のみ）	大城戸政行 （新患紹介のみ）	大城戸政行 （新患紹介のみ）	
産婦人科 新患は紹介のみ <small>※受付時間 月・水・金 8:30～11:00 火・木 8:30～10:30 産科初診のみ婦人科で受付</small>	午前	産科	後藤遥	中西貴子	蔵本和孝	中西貴子	高杉篤志
			上岡陽亮	大石博子	上岡陽亮	竹内麗子	上岡陽亮
			大石博子	前原都	竹内麗子	高杉篤志	大石博子
			竹内麗子	前原都	前原都	高杉篤志	中西貴子
			中西貴子	高杉篤志	高杉篤志	高杉篤志	前原都
			—	—	—	—	—
整形外科 <small>新患は紹介のみ 月・水・金は 受付 8:30～10:30</small>	午前	整形外科	紹介新患のみ （当番医）	馬渡太郎	紹介新患のみ （当番医）	松井元	馬渡太郎
			松井元	井口貴裕	井口貴裕	井口貴裕	
			川原慎也	光安浩章	光安浩章	光安浩章	
			末田麗真	末田麗真	末田麗真	末田麗真	
			北出一季	北出一季	北出一季	北出一季	
形成外科	午前	形成外科	松本大輔	—	松本大輔	—	松本大輔
			江藤ひとみ	江藤ひとみ	江藤ひとみ	江藤ひとみ	
泌尿器科 <small>午後は予約と紹介のみ</small>	午前	泌尿器科	小藤秀嗣	上田（予約のみ）	小藤秀嗣	山崎（予約のみ）	小藤秀嗣
			山崎武成	—	山崎武成	—	上田耕平
小児科 <small>午後は予約のみ 内分泌 第3木曜日 循環器 第4木曜日のみ（予約）</small>	午前	小児科	上田圭希	内田理彦	兒玉志保	武本環美	内田理彦
			兒玉志保	回診	武本（小児神経）	1ヶ月健診	上田圭希
耳鼻咽喉科	午前	耳鼻科	野田哲平	玉江昭裕	—	玉江昭裕	玉江昭裕
			岡部翠	野田哲平	—	野田哲平	岡部翠
			西山和郎	西山和郎	—	岡部翠	山本陵太
			山本陵太	山本陵太	—	西山和郎	西山和郎
眼科	午前	眼科	佐々由季生	—	佐々由季生	（当番医）	佐々由季生
			応援医	西村太吾	西村太吾	西村太吾	
皮膚科 （新患は紹介のみ）	午前	皮膚科	竹内聡	池田真希	竹内聡	竹内聡	竹内聡
			池田真希	康渚	池田真希	康渚	池田真希
放射線科	午前	放射線科	松浦隆志	松浦隆志	松浦隆志	—	—
			角南俊也	角南俊也	角南俊也	角南俊也	角南俊也
			亀井僚太郎	亀井僚太郎	亀井僚太郎	亀井僚太郎	亀井僚太郎
			舛本博史	舛本博史	舛本博史	舛本博史	舛本博史
			平峯慶子	平峯慶子	平峯慶子	平峯慶子	平峯慶子
精神科 ※原則として当院に入院中の患者のみ	午後	精神科	—	九大（予約のみ）	—	九大（予約のみ）	九大（予約のみ）
			—	九大（予約のみ）	—	九大（予約のみ）	
緩和ケア外来 <small>※原則として当院で診療を 行っている患者のみ 11:00～12:00（完全予約制）</small>	午後	緩和ケア外来	永山淳	永山淳	—	永山淳	永山淳
			—	—	—	—	
健康医学センター （要予約）	午前	外来ドック	高崎智子	高崎智子	高崎智子	高崎智子	高崎智子
			久野千津子	久野千津子	久野千津子	久野千津子	久野千津子

受付時間：午前8:30～11:00

発行責任者／浜の町病院広報誌編集委員会 委員長 吉澤 誠司